

## 演習課題 11：反粒子を捕まえよう

### ～最軽量原子ポジトロニウムの崩壊観測実験～

担当教員： 東京都立大学・大学院理学研究科、汲田 哲郎

東京工業大学・理学院、陣内 修

ある素粒子と質量やスピンの等しく、電荷の正負が逆転した粒子を反粒子と呼びます。粒子と反粒子が出会うと消滅し、質量がエネルギーに変換され、通常は光子が放出されます（対消滅）。SF ではおなじみの話ですが、高エネルギー物理学では、日常的に反粒子を使った実験を行っています。

反粒子は、巨大な加速器を使わなくても発生させることができます。通常の $\beta$ 崩壊（中性子  $\rightarrow$  陽子+電子+反ニュートリノ）の逆で、 $\beta^+$ 崩壊として知られる、陽子  $\rightarrow$  中性子+陽電子+ニュートリノ のような崩壊をする放射性元素を使えば、簡単に陽電子（電子の反粒子）を得ることができます。

陽電子を通常物質に入射するとどうなるでしょうか？電子と対消滅を起こして、 $\gamma$ 線を生成しますが、中には電子と束縛し、準安定状態を作るものもあります。ちょうど水素原子の陽子を陽電子で置き換えた、この「原子」は、ポジトロニウム (Ps) と呼ばれます。Ps は、質量が電子の2倍、水素原子の約1/1000で、半径が水素原子の2倍の最軽量原子です。

Ps はスピン1/2を持つ電子と陽電子の束縛系なので、スピン合成則によりスピン並行 ( $S=1$ ) で3重項のオルソポジトロニウム (o-Ps) と反平行 ( $S=0$ ) で1重項のパラポジトロニウム (p-Ps) に分類することができます (図参照)。電磁相互作用では、荷電共役変換（粒子-反粒子変換）に対する対称性が存在することから、o-Ps は奇数本(主に3本)の $\gamma$ 線に寿命142ナノ秒で崩壊、p-Ps は偶数本(主に2本)の $\gamma$ 線に寿命125ピコ秒で崩壊します。崩壊前の静止しているPsと崩壊後の $\gamma$ 線の間で、エネルギーと運動量が保存するため、1本の $\gamma$ 線への崩壊は禁止され、p-Psの2 $\gamma$ 崩壊では、電子の質量エネルギー(511keV)を持った $\gamma$ 線2本が正反対の方向に放出されます。o-Psの3 $\gamma$ 崩壊では、同一平面上に3本の $\gamma$ 線が放出され、エネルギーの総和は電子と陽電子の質量エネルギーを合計した1022keVとなります。

o-Psの寿命142ナノ秒は、十分長い時間なので、実験的に測定することができます。この演習では、陽電子を放出する $\beta^+$ 放射核とPsを生成しやすいシリカエアロジェルトターゲットの周りに $\gamma$ 線検出器を配置し、3本の $\gamma$ 線のエネルギーと飛来時刻を測定し、オルソポジトロニウムの生成を確認します。

演習を通じて、高エネルギー物理学で標準的に使用される、 $\gamma$ 線測定器、データ収集電子回路、コンピューターを使用したデータ解析技法について学習します。

